

平成18年10～12月期結果の概要

今期の概況

1 今期の個人企業（個人経営の事業所）の業況判断D I

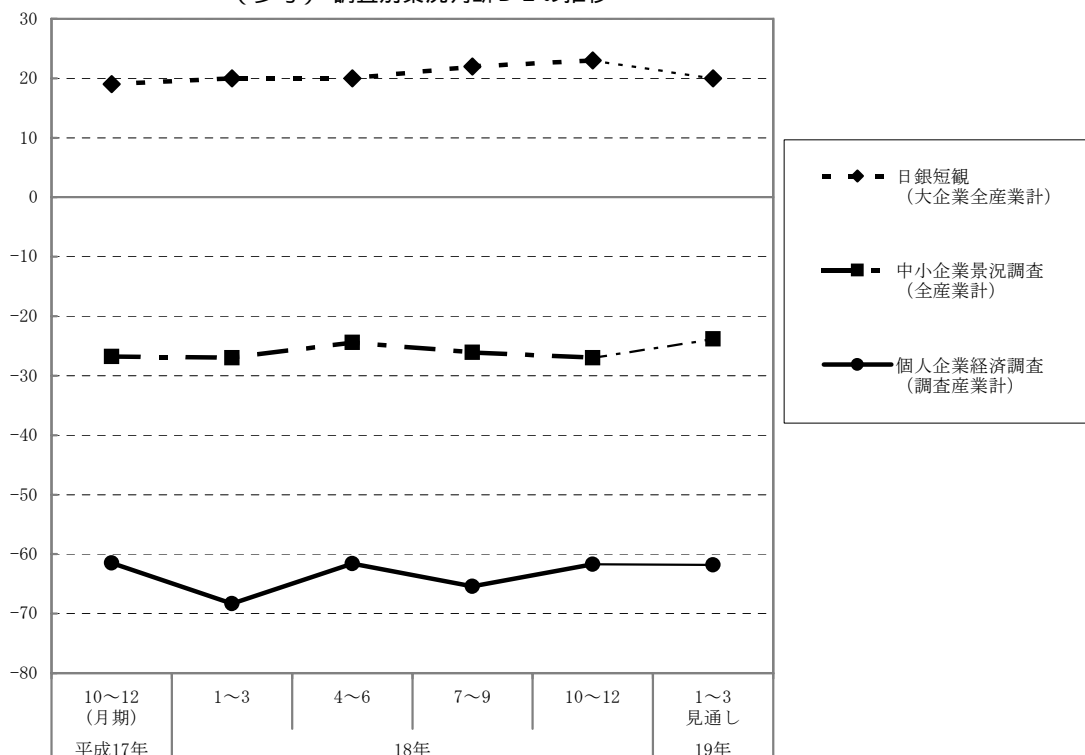
今期の業況判断
今期（平成18年10～12月期）の業況判断D Iは (-)61.7 で、前期（平成18年7～9月期）(-65.4)に比べ、3.7 ポイントの改善。

来期の見通し
来期（平成19年1～3月期）の業況見通しD Iは (-)61.8 で、今期の業況判断(-61.7)に比べ、0.1 ポイントの悪化の見通し。

表1 業況判断の割合

	平成17年	18年				19年
	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期見通し
今期の業況，来期の業況 (%)						
良い／好転	4.7	2.8	3.6	3.5	4.9	2.5
普通／不変	29.1	26.1	31.2	27.6	28.4	33.2
悪い／悪化	66.2	71.1	65.2	68.9	66.6	64.3
D I	-61.5	-68.3	-61.6	-65.4	-61.7	-61.8

(参考) 調査別業況判断D Iの推移



(出典)

「日銀短観」：日本銀行調べ

「中小企業景況調査」：独立行政法人 中小企業基盤整備機構調べ

(注1) D Iとは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「良い」、「好転」、「増加」、「過剰」と回答した事業所の割合から「悪い」、「悪化」、「減少」、「不足」と回答した事業所の割合を差し引いた値をいう。

(注2) 「個人企業（個人経営の事業所）の業況判断D I」は、調査4産業全体の指数である。

2 今期の売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は、	
□「製造業」	は 287万8000円で、前年同期に比べ、0.6%の減少
□「卸売・小売業」	は 546万2000円で、前年同期に比べ、5.4%の増加
□「飲食店、宿泊業」	は 228万5000円で、前年同期に比べ、1.6%の減少
□「サービス業」	は 158万3000円で、前年同期に比べ、7.0%の増加
今期の1事業所当たりの営業利益は、	
□「製造業」	は 83万4000円で、前年同期に比べ、4.9%の減少
□「卸売・小売業」	は 59万9000円で、前年同期に比べ、6.6%の減少
□「飲食店、宿泊業」	は 44万1000円で、前年同期に比べ、5.8%の減少
□「サービス業」	は 57万3000円で、前年同期に比べ、2.6%の減少

前年同期(平成17年10～12月期)

表2 産業別売上高及び営業利益

		(1事業所当たり)							
		製造業		卸売・小売業		飲食店、宿泊業		サービス業	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
実数 (千円)	平成16年 10～12月期	3,271	896	5,118	606	2,590	515	1,641	626
	平成17年 1～3月期	2,899	857	4,718	519	2,402	538	1,412	527
	4～6月期	2,881	851	4,808	528	2,392	536	1,508	639
	7～9月期	2,555	692	4,876	536	2,313	475	1,441	575
	平成18年 10～12月期	2,896	877	5,184	641	2,322	468	1,480	588
	1～3月期	2,251	696	4,607	525	2,090	455	1,355	516
	4～6月期	2,546	755	5,007	558	2,060	447	1,448	588
	7～9月期	2,635	759	4,782	565	2,158	450	1,447	534
前年同期比 (%)	平成16年 10～12月期	7.3	-5.7	-0.9	4.1	3.2	-5.0	-1.3	3.8
	平成17年 1～3月期	-4.0	-3.9	-4.0	-9.9	3.5	4.1	-1.4	4.8
	4～6月期	-9.5	-8.0	-1.6	7.5	2.0	14.3	-10.9	-5.2
	7～9月期	-22.2	-27.9	0.9	10.7	-6.8	-2.9	-8.2	-0.3
	平成18年 10～12月期	-11.5	-2.1	1.3	5.8	-10.3	-9.1	-9.8	-6.1
	1～3月期	-22.4	-18.8	-2.4	1.2	-13.0	-15.4	-4.0	-2.1
	4～6月期	-11.6	-11.3	4.1	5.7	-13.9	-16.6	-4.0	-8.0
	7～9月期	3.1	9.7	-1.9	5.4	-6.7	-5.3	0.4	-7.1
10～12月期	-0.6	-4.9	5.4	-6.6	-1.6	-5.8	7.0	-2.6	

3 今期の設備投資額

今期の1事業所当たりの設備投資額は、	
□「製造業」	は 17万6000円で、前年同期(12万4000円)に比べ、増加
□「卸売・小売業」	は 22万1000円で、前年同期(9万6000円)に比べ、増加
□「飲食店、宿泊業」	は 5万9000円で、前年同期(5万8000円)に比べ、増加
□「サービス業」	は 25万6000円で、前年同期(13万4000円)に比べ、増加
今期の1事業所当たりの設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は、	
□「製造業」	は 6.1%で、前年同期(4.3%)に比べ、1.8ポイントの上昇
□「卸売・小売業」	は 4.0%で、前年同期(1.9%)に比べ、2.1ポイントの上昇
□「飲食店、宿泊業」	は 2.6%で、前年同期(2.5%)に比べ、0.1ポイントの上昇
□「サービス業」	は 16.2%で、前年同期(9.1%)に比べ、7.1ポイントの上昇

前年同期(平成17年10～12月期)

表3 産業別設備投資額及び設備投資率

		(1事業所当たり)							
		製造業		卸売・小売業		飲食店、宿泊業		サービス業	
		設備投資額	設備投資率	設備投資額	設備投資率	設備投資額	設備投資率	設備投資額	設備投資率
		(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
平成16年	10～12月期	154	4.7	96	1.9	153	5.9	98	6.0
平成17年	1～3月期	168	5.8	85	1.8	64	2.7	45	3.2
	4～6月期	121	4.2	118	2.5	109	4.6	118	7.8
	7～9月期	159	6.2	168	3.4	60	2.6	138	9.6
平成18年	10～12月期	124	4.3	96	1.9	58	2.5	134	9.1
	1～3月期	110	4.9	75	1.6	51	2.4	44	3.2
	4～6月期	101	4.0	150	3.0	79	3.8	77	5.3
	7～9月期	207	7.9	74	1.5	92	4.3	139	9.6
	10～12月期	176	6.1	221	4.0	59	2.6	256	16.2

業況判断

1 調査産業計

(1) 業況

今期の業況

ア 今期（平成18年10～12月期）の業況判断D Iは（-）61.7 で、前期（平成18年7～9月期）（-65.4）に比べ、3.7ポイント改善した。

イ 前期と比較した業況判断D Iは（-）42.6 で、前期（-51.1）に比べ、8.5ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成17年10～12月期）と比較した業況判断D Iは（-）56.0 で、前期（-56.8）に比べ、0.8ポイント改善した。

来期の業況見通し

来期（平成19年1～3月期）の業況見通しD Iは（-）61.8 で、今期の業況判断（-61.7）に比べ、0.1ポイントの悪化の見通しとなっている。

図1 業況判断D Iの推移 - 調査産業計 -

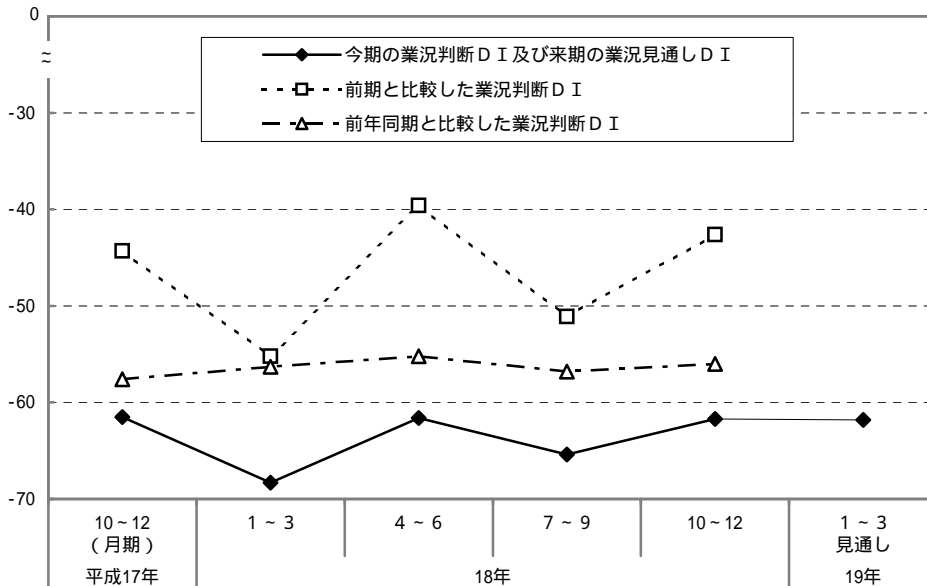
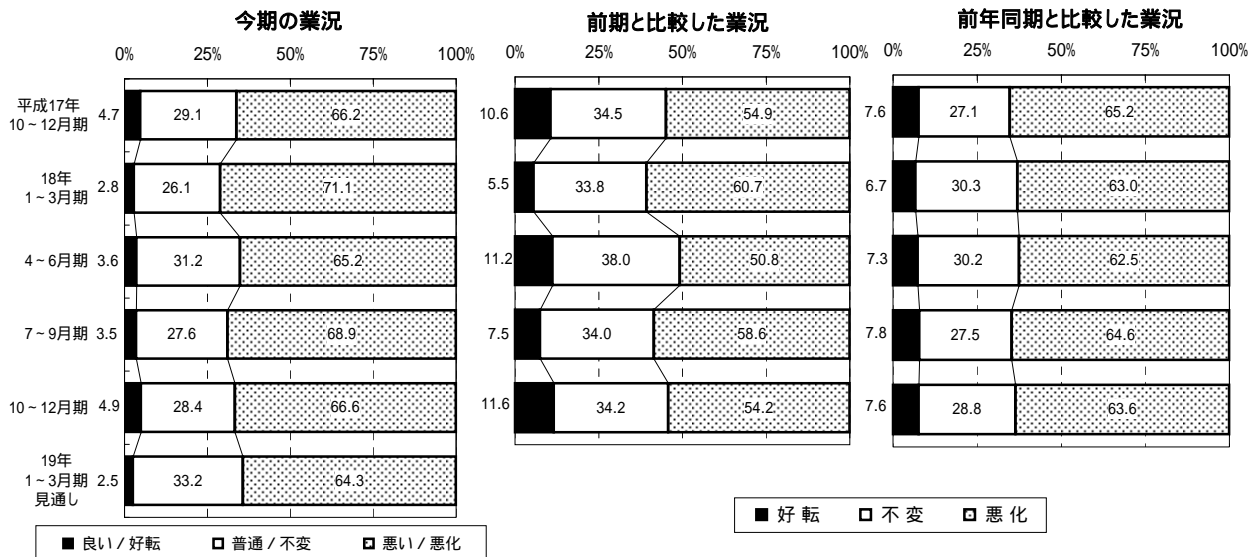


図2 業況判断の割合 - 調査産業計 -



(2) 売上の状況

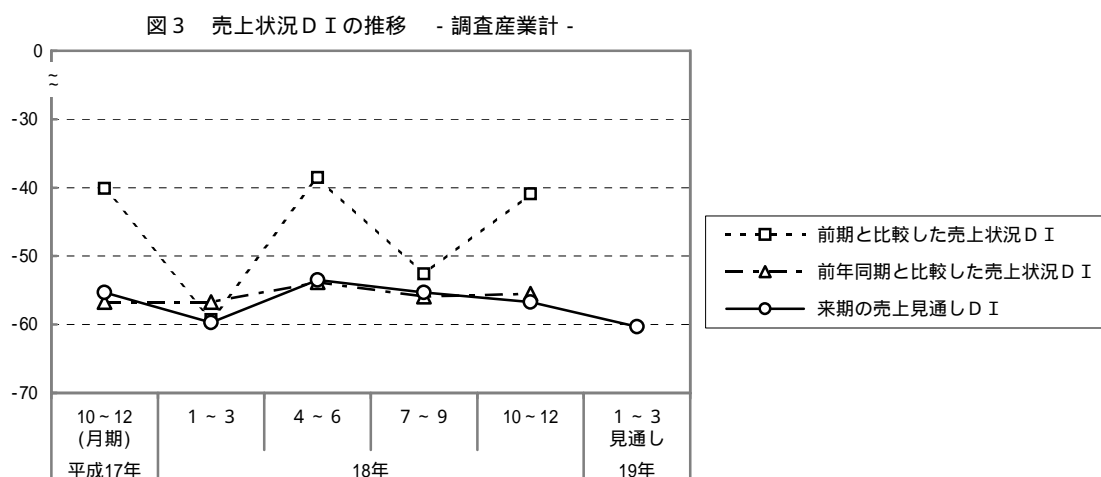
今期の売上の状況

ア 前期と比較した売上状況D Iは (-)40.9 で、前期 (-52.6) に比べ、11.7 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況D Iは (-)55.5 で、前期 (-55.9) に比べ、0.4 ポイント改善した。

来期の売上見通し

来期の売上見通しD Iは (-)60.3 で、前期における今期の売上見通し (-56.7) に比べ、3.6 ポイントの悪化の見通しとなっている。



(3) 営業利益の状況

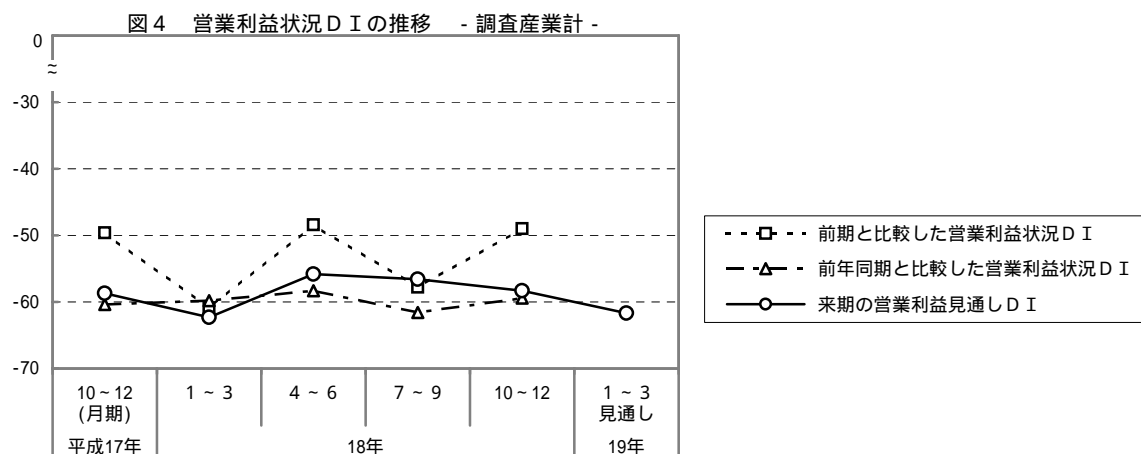
今期の営業利益の状況

ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)49.0 で、前期 (-57.8) に比べ、8.8 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)59.4 で、前期 (-61.6) に比べ、2.2 ポイント改善した。

来期の営業利益見通し

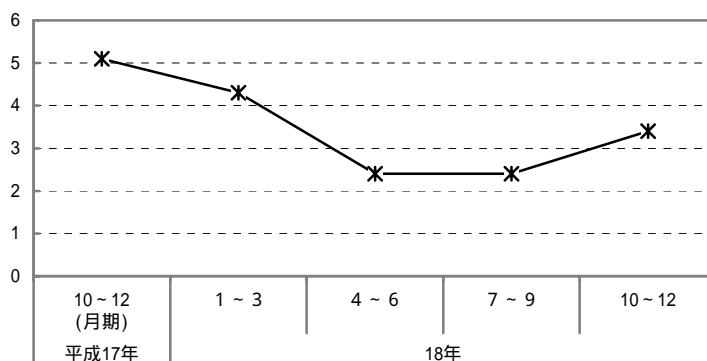
来期の営業利益見通しD Iは (-)61.7 で、前期における今期の営業利益見通し (-58.3) に比べ、3.4 ポイントの悪化の見通しとなっている。



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況D Iは (+)3.4 で、前期 (+2.4) に比べ、1.0 ポイント「過剰」が拡大した。

図5 製品・商品・原材料の在庫状況D Iの推移 - 調査産業計 -

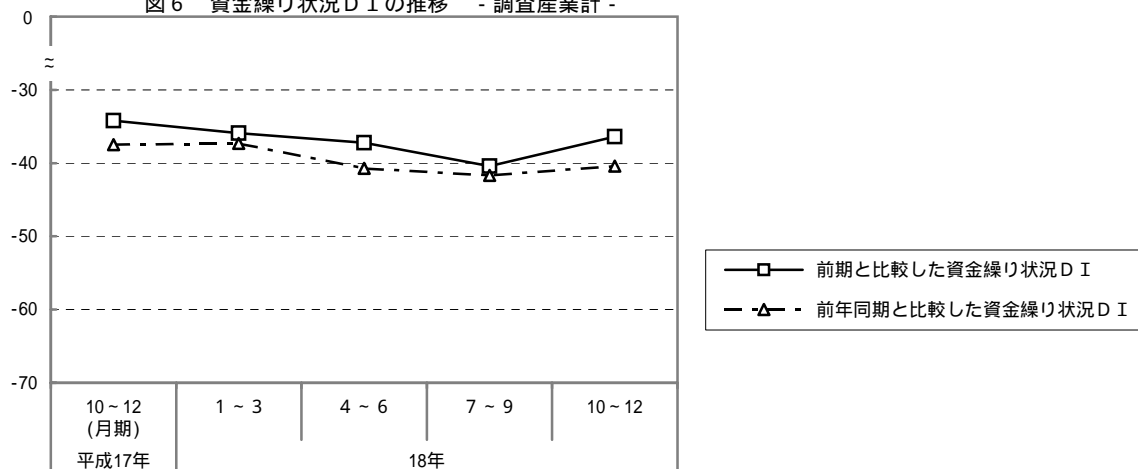


(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況D Iは (-)36.4 で、前期 (-40.4) に比べ、4.0 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況D Iは (-)40.4 で、前期 (-41.7) に比べ、1.3 ポイント改善した。

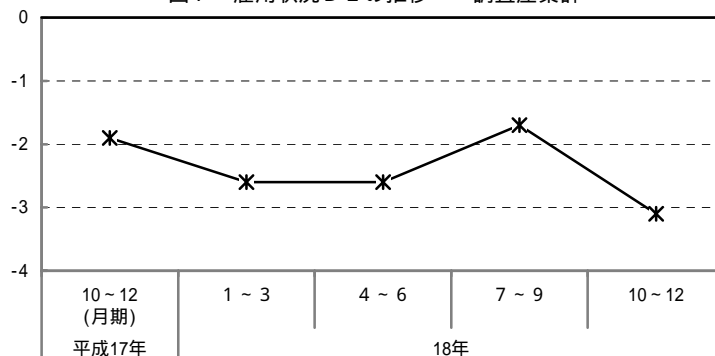
図6 資金繰り状況D Iの推移 - 調査産業計 -



(6) 雇用状況

今期の雇用状況D Iは (-)3.1 で、前期 (-1.7) に比べ、1.4 ポイント「不足」が拡大した。

図7 雇用状況D Iの推移 - 調査産業計 -



2 製造業

(1) 業況

今期の業況

ア 今期（平成18年10～12月期）の業況判断D Iは（-）51.7で、前期（平成18年7～9月期）（-60.3）に比べ、8.6ポイント改善した。

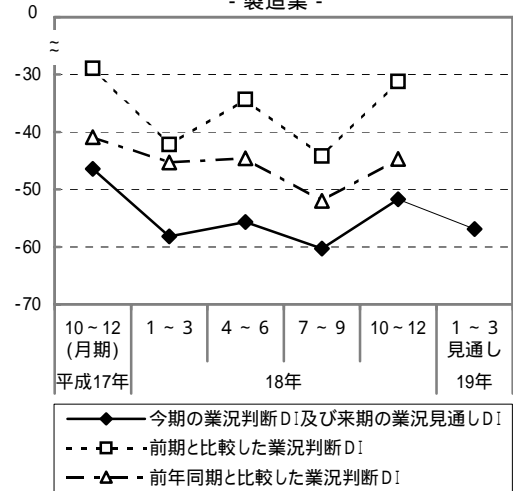
イ 前期と比較した業況判断D Iは（-）31.2で、前期（-44.2）に比べ、13.0ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成17年10～12月期）と比較した業況判断D Iは（-）44.7で、前期（-52.0）に比べ、7.3ポイント改善した。

来期の業況見通し

来期（平成19年1～3月期）の業況見通しD Iは（-）56.9で、今期の業況判断（-51.7）に比べ、5.2ポイントの悪化の見通しとなっている。

図8 業況判断D Iの推移
- 製造業 -



(2) 売上の状況

今期の売上の状況

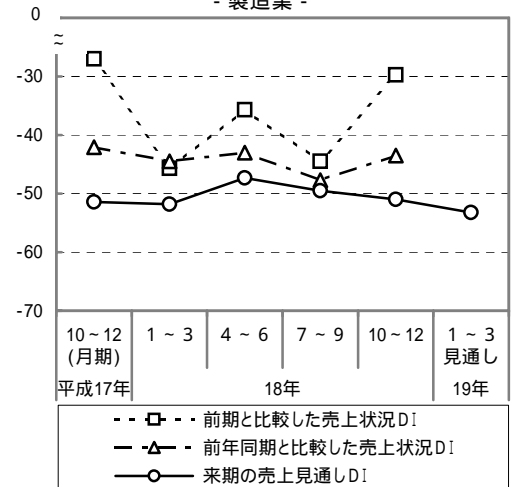
ア 前期と比較した売上状況D Iは（-）29.7で、前期（-44.5）に比べ、14.8ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況D Iは（-）43.5で、前期（-47.7）に比べ、4.2ポイント改善した。

来期の売上見通し

来期の売上見通しD Iは（-）53.2で、前期における今期の売上見通し（-51.0）に比べ、2.2ポイントの悪化の見通しとなっている。

図9 売上状況D Iの推移
- 製造業 -



(3) 営業利益の状況

今期の営業利益の状況

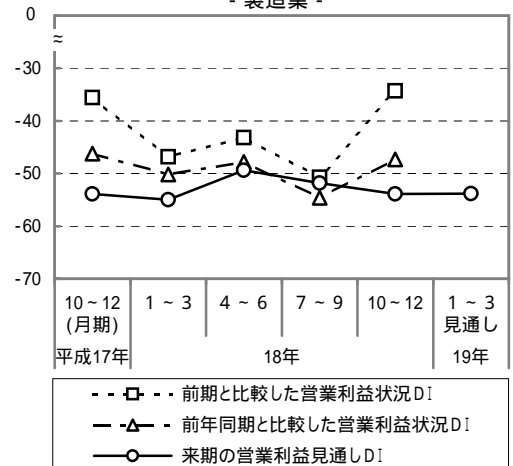
ア 前期と比較した営業利益状況D Iは（-）34.3で、前期（-50.7）に比べ、16.4ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは（-）47.3で、前期（-54.6）に比べ、7.3ポイント改善した。

来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しD Iは（-）53.8で、前期における今期の営業利益見通し（-53.9）に比べ、0.1ポイントの改善の見通しとなっている。

図10 営業利益状況D Iの推移
- 製造業 -



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)4.3 で、前期 (+1.9) に比べ、2.4 ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)31.9 で、前期 (-39.4) に比べ、7.5 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)36.3 で、前期 (-41.1) に比べ、4.8 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)1.7 で、前期の「過剰」(+2.2) から「不足」に転じた。

図11 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 - 製造業 -

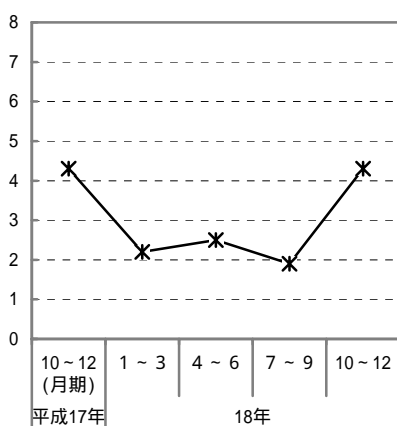


図12 資金繰り状況DIの推移 - 製造業 -

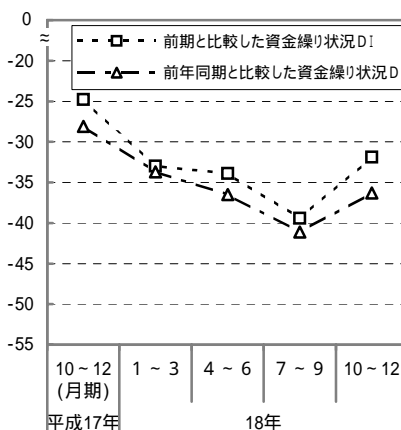
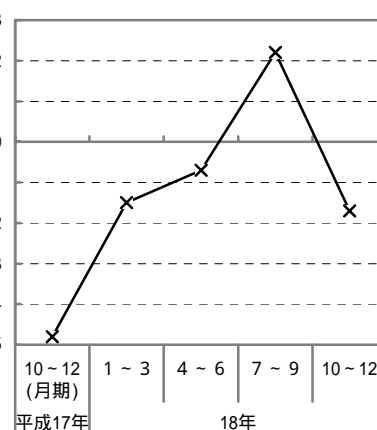


図13 雇用状況DIの推移 - 製造業 -



3 卸売・小売業

(1) 業況

今期の業況

ア 今期（平成18年10～12月期）の業況判断DIは (-)60.4 で、前期（平成18年7～9月期）(-65.5) に比べ、5.1 ポイント改善した。

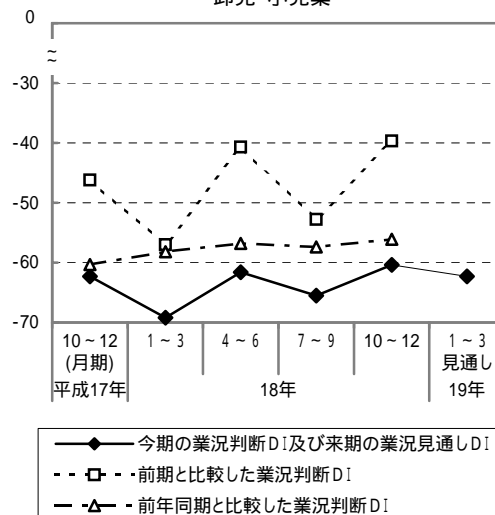
イ 前期と比較した業況判断DIは (-)39.7 で、前期 (-52.8) に比べ、13.1 ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成17年10～12月期）と比較した業況判断DIは (-)56.1 で、前期 (-57.4) に比べ、1.3 ポイント改善した。

来期の業況見通し

来期（平成19年1～3月期）の業況見通しDIは (-)62.3 で、今期の業況判断 (-60.4) に比べ、1.9 ポイントの悪化の見通しとなっている。

図14 業況判断DIの推移 - 卸売・小売業 -



(2) 売上の状況

今期の売上の状況

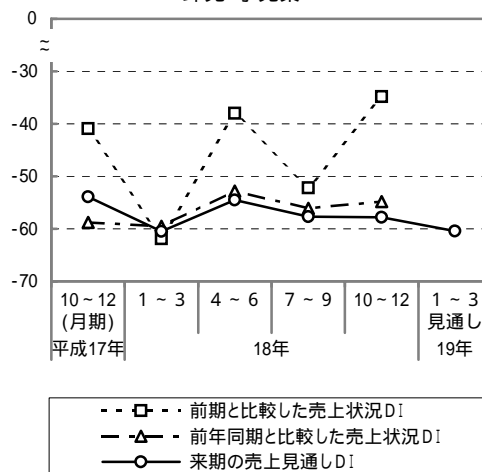
ア 前期と比較した売上状況D Iは (-)34.8 で、前期 (-52.2) に比べ、17.4 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況D Iは (-)54.8 で、前期 (-56.1) に比べ、1.3 ポイント改善した。

来期の売上見通し

来期の売上見通しD Iは (-)60.4 で、前期における今期の売上見通し (-57.8) に比べ、2.6 ポイントの悪化の見通しとなっている。

図15 売上状況D Iの推移
- 卸売・小売業 -



(3) 営業利益の状況

今期の営業利益の状況

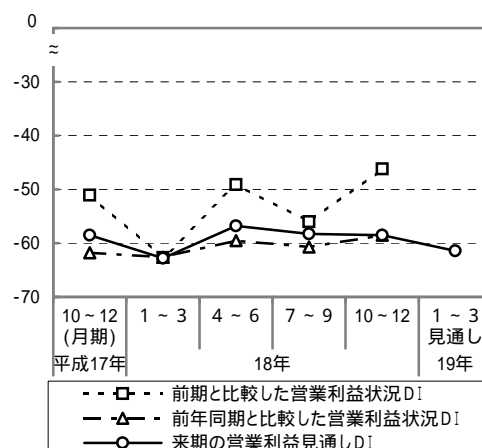
ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)46.2 で、前期 (-56.0) に比べ、9.8 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)58.5 で、前期 (-60.7) に比べ、2.2 ポイント改善した。

来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しD Iは (-)61.4 で、前期における今期の営業利益見通し (-58.5) に比べ、2.9 ポイントの悪化の見通しとなっている。

図16 営業利益状況D Iの推移
- 卸売・小売業 -



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況D Iは (+)4.5 で、前期 (+3.8) に比べ、0.7 ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況D Iは (-)32.9 で、前期 (-39.5) に比べ、6.6 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況D Iは (-)36.5 で、前期 (-40.1) に比べ、3.6 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況D Iは (-)4.0 で、前期 (-1.0) に比べ、3.0 ポイント「不足」が拡大した。

図17 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 - 卸売・小売業 -

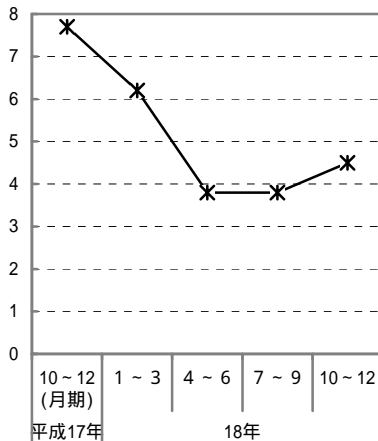


図18 資金繰り状況DIの推移 - 卸売・小売業 -

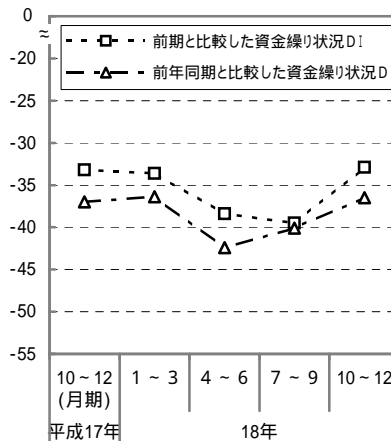
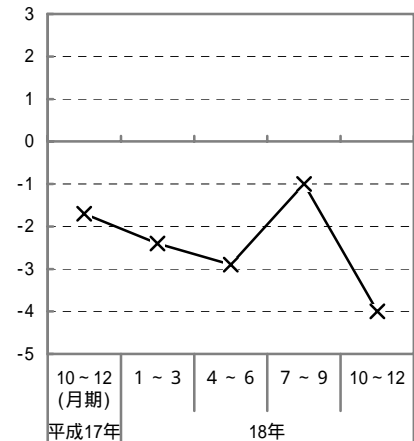


図19 雇用状況DIの推移 - 卸売・小売業 -



4 飲食店、宿泊業

(1) 業況

今期の業況

ア 今期（平成18年10～12月期）の業況判断DIは (-)65.7 で、前期（平成18年7～9月期）(-65.5) に比べ、0.2 ポイント悪化した。

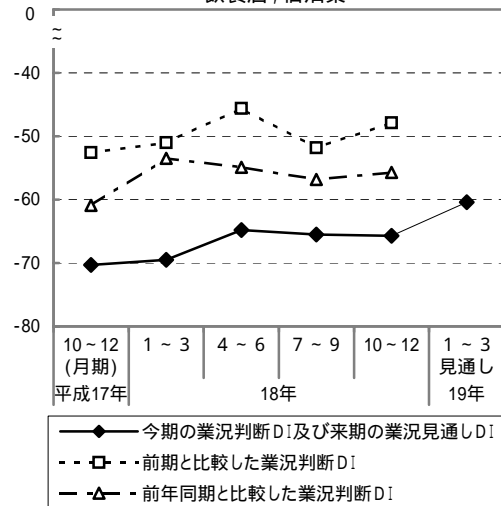
イ 前期と比較した業況判断DIは (-)47.9 で、前期 (-51.8) に比べ、3.9 ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成17年10～12月期）と比較した業況判断DIは (-)55.7 で、前期 (-56.8) に比べ、1.1 ポイント改善した。

来期の業況見通し

来期（平成19年1～3月期）の業況見通しDIは (-)60.4 で、今期の業況判断 (-65.7) に比べ、5.3 ポイントの改善の見通しとなっている。

図20 業況判断DIの推移 - 飲食店、宿泊業 -



(2) 売上の状況

今期の売上の状況

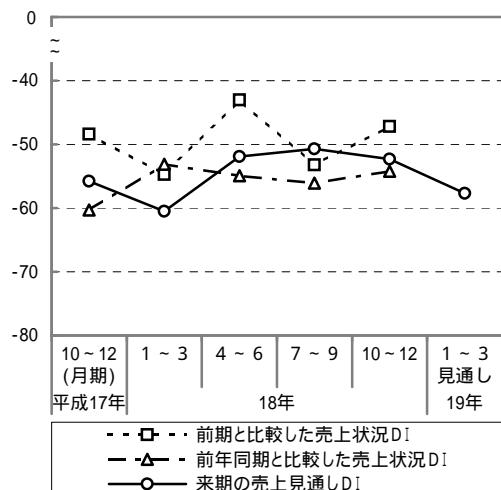
ア 前期と比較した売上状況DIは (-)47.2 で、前期 (-53.2) に比べ、6.0 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは (-)54.2 で、前期 (-56.1) に比べ、1.9 ポイント改善した。

来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは (-)57.7 で、前期における今期の売上見通し (-52.3) に比べ、5.4 ポイントの悪化の見通しとなっている。

図21 売上状況DIの推移 - 飲食店、宿泊業 -



(3) 営業利益の状況

今期の営業利益の状況

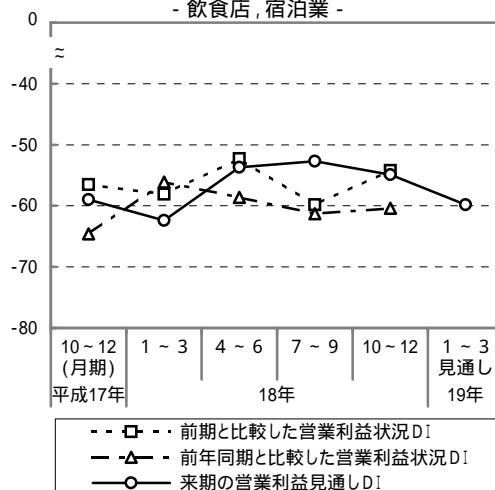
ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)54.2 で、前期 (-59.8) に比べ、5.6 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)60.4 で、前期 (-61.3) に比べ、0.9 ポイント改善した。

来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しD Iは (-)59.8 で、前期における今期の営業利益見通し (-54.9) に比べ、4.9 ポイントの悪化の見通しとなっている。

図22 営業利益状況D Iの推移
- 飲食店、宿泊業 -



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況D Iは (+)1.4 で、前期(+2.0)に比べ、0.6 ポイント「過剰」が縮小した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況D Iは (-)45.4 で、前期 (-44.7) に比べ、0.7 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況D Iは (-)49.7 で、前期 (-44.7) に比べ、5.0 ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況D Iは (-)2.9 で、前期 (-4.3) に比べ、1.4 ポイント「不足」が縮小した。

図23 製品・商品・原材料の在庫状況D Iの推移
- 飲食店、宿泊業 -

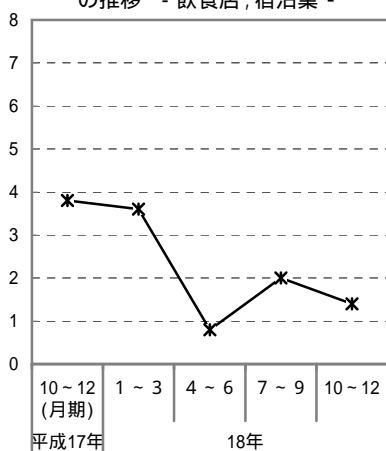


図24 資金繰り状況D Iの推移
- 飲食店、宿泊業 -

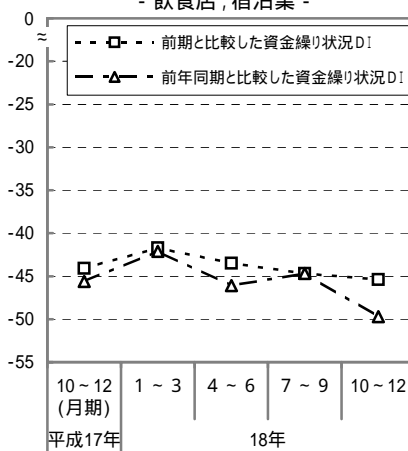
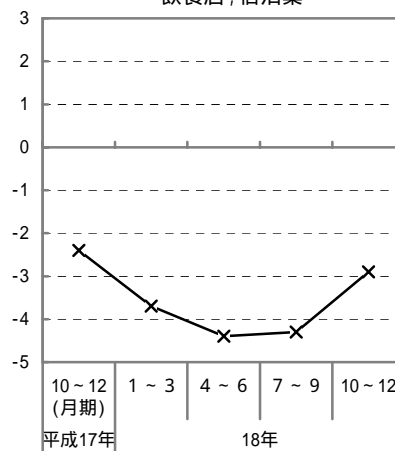


図25 雇用状況D Iの推移
- 飲食店、宿泊業 -



5 サービス業

(1) 業況

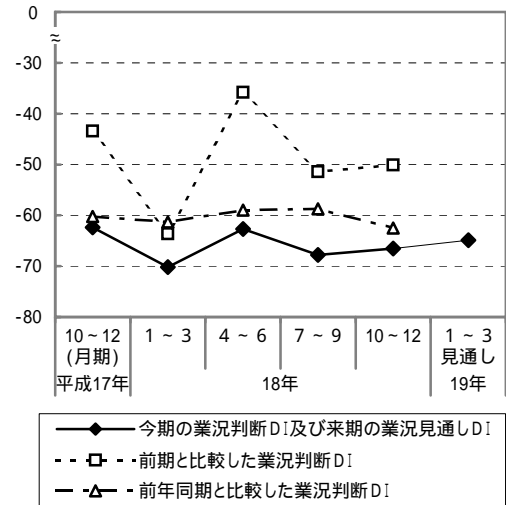
今期の業況

- ア 今期（平成18年10～12月期）の業況判断D Iは (-)66.5 で、前期（平成18年7～9月期）(-67.8) に比べ、1.3 ポイント改善した。
- イ 前期と比較した業況判断D Iは (-)50.1 で、前期 (-51.4) に比べ、1.3 ポイント改善した。
- ウ 前年同期（平成17年10～12月期）と比較した業況判断D Iは (-)62.5 で、前期 (-58.7) に比べ、3.8 ポイント悪化した。

来期の業況見通し

来期（平成19年1～3月期）の業況見通しD Iは (-)64.9 で、今期の業況判断 (-66.5) に比べ、1.6 ポイントの改善の見通しとなっている。

図26 業況判断D Iの推移
- サービス業 -



(2) 売上の状況

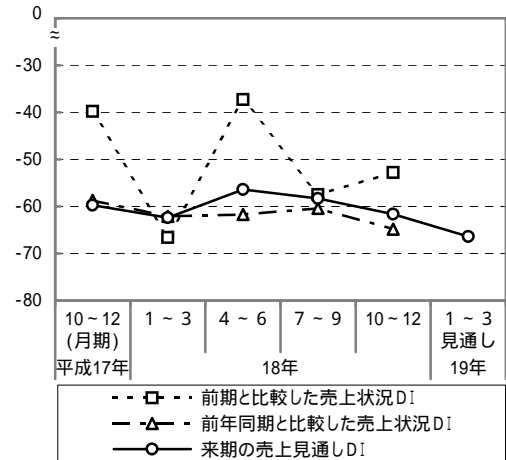
今期の売上の状況

- ア 前期と比較した売上状況D Iは (-)52.8 で、前期 (-57.5) に比べ、4.7 ポイント改善した。
- イ 前年同期と比較した売上状況D Iは (-)64.8 で、前期 (-60.4) に比べ、4.4 ポイント悪化した。

来期の売上見通し

来期の売上見通しD Iは (-)66.4 で、前期における今期の売上見通し (-61.6) に比べ、4.8 ポイントの悪化の見通しとなっている。

図27 売上状況D Iの推移
- サービス業 -



(3) 営業利益の状況

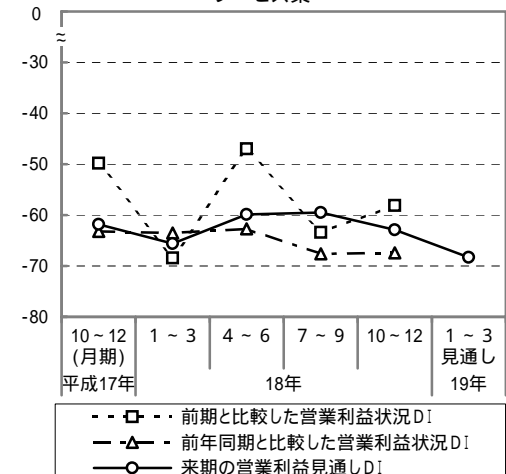
今期の営業利益の状況

- ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)58.1 で、前期 (-63.4) に比べ、5.3 ポイント改善した。
- イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)67.4 で、前期 (-67.6) に比べ、0.2 ポイント改善した。

来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しD Iは (-)68.3 で、前期における今期の営業利益見通し (-62.9) に比べ、5.4 ポイントの悪化の見通しとなっている。

図28 営業利益状況D Iの推移
- サービス業 -



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)2.5 で、前期 (+0.5) に比べ、2.0 ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)37.9 で、前期 (-39.5) に比べ、1.6 ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)41.9 で、前期 (-42.4) に比べ、0.5 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)2.2 で、前期(-3.1) に比べ、0.9 ポイント「不足」が縮小した。

図29 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 - サービス業 -

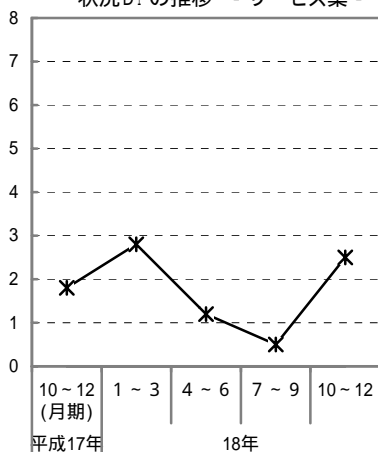


図30 資金繰り状況DIの推移 - サービス業 -

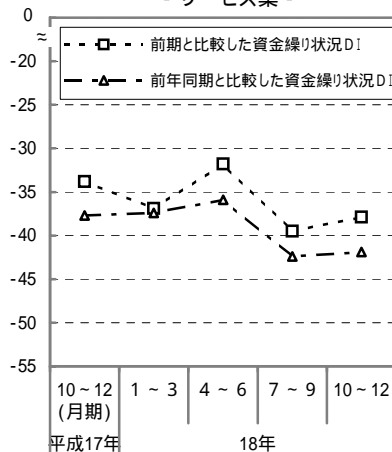
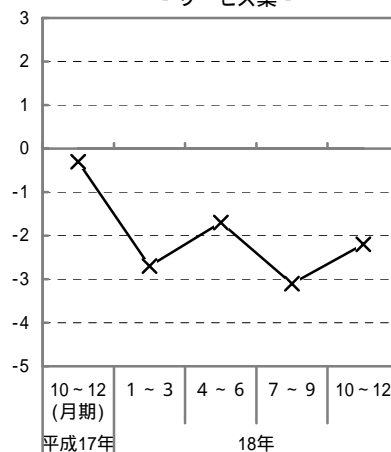


図31 雇用状況DIの推移 - サービス業 -



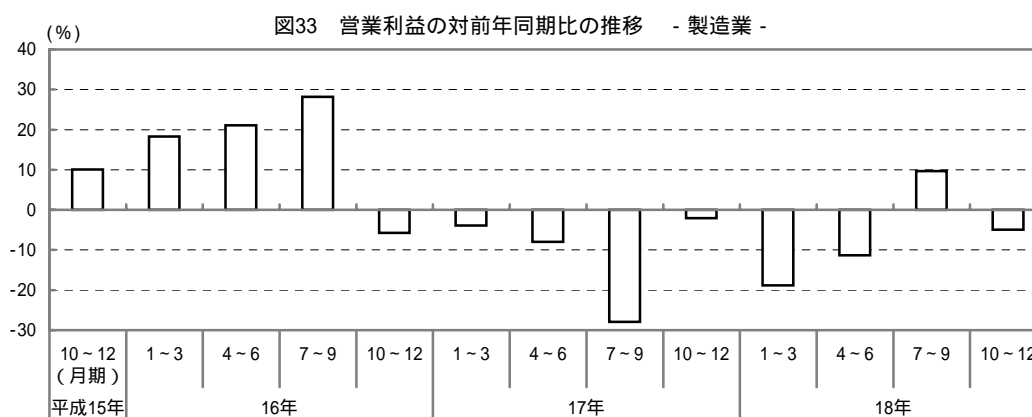
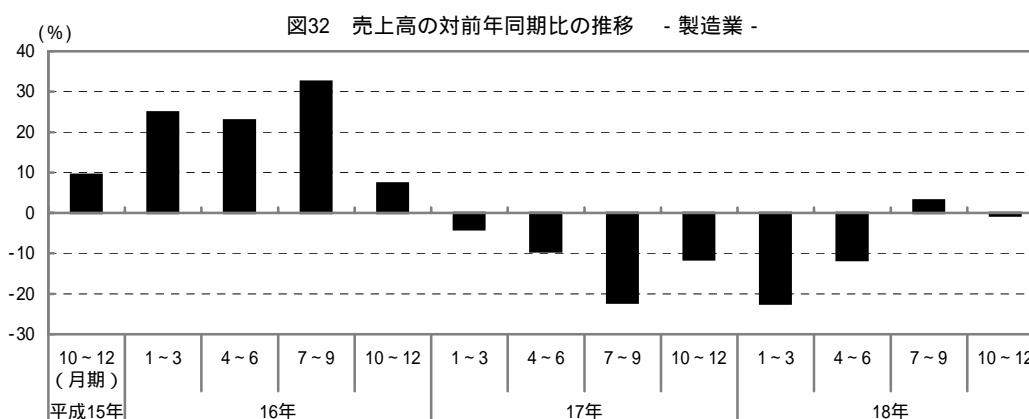
営業収支

1 製造業

(1) 売上高及び営業利益

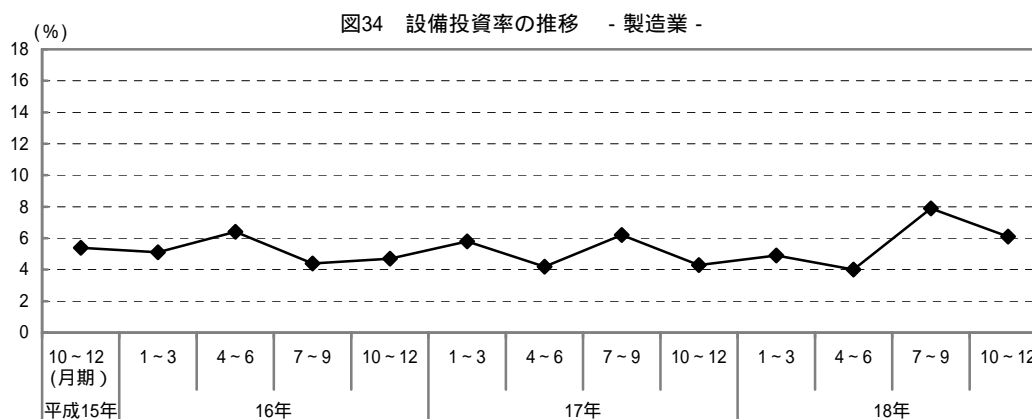
今期の1事業所当たりの売上高は287万8000円で、これに対する費用は売上原価が92万円、営業費が112万4000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は83万4000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)0.6%で、2期ぶりに減少した。また、営業利益は(-)4.9%で、2期ぶりに減少した。



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は17万6000円で、前年同期(12万4000円)を上回った。また、設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は6.1%で、前年同期(4.3%)を1.8ポイント上回った。

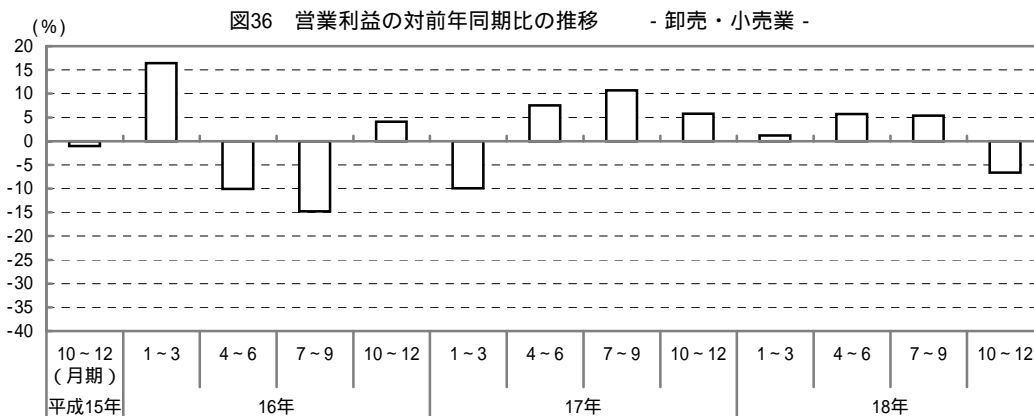
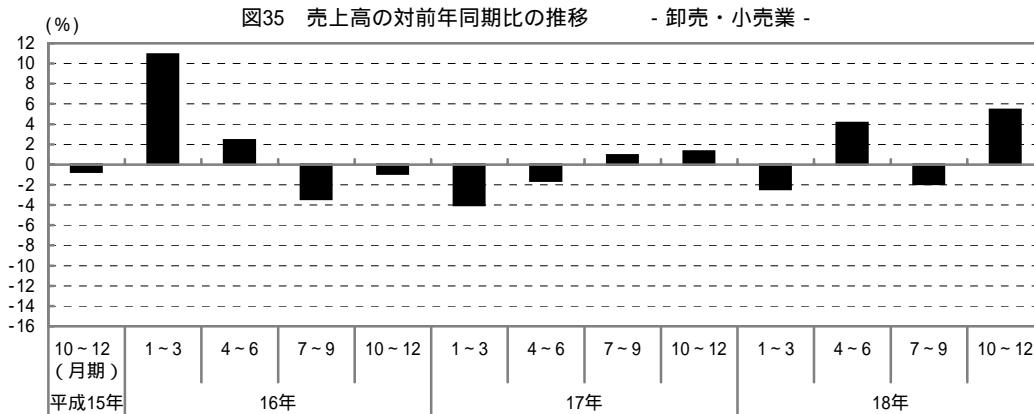


2 卸売・小売業

(1) 売上高及び営業利益

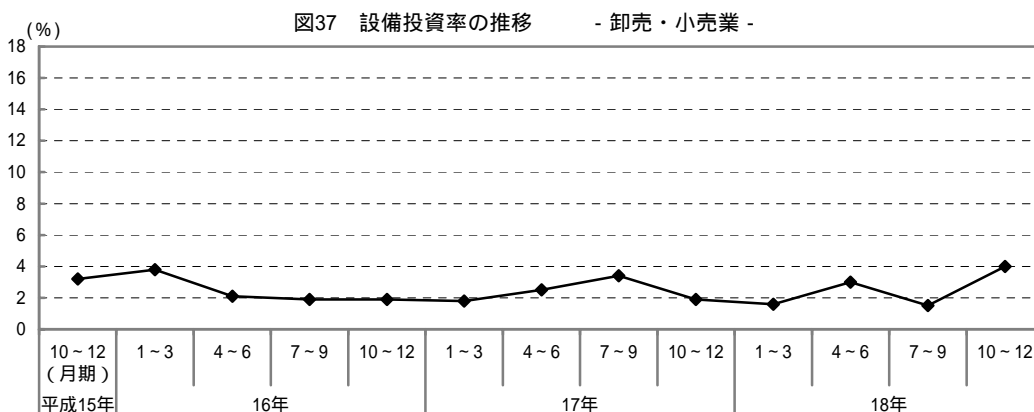
今期の1事業所当たりの売上高は546万2000円で、これに対する費用は売上原価が381万3000円、営業費が105万円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は59万9000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 5.4% で、2期ぶりに増加した。また、営業利益は(-) 6.6% で、7期ぶりで減少した。



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は22万1000円で、前年同期(9万6000円)を上回った。また、設備投資率は4.0%で、前年同期(1.9%)を2.1ポイント上回った。

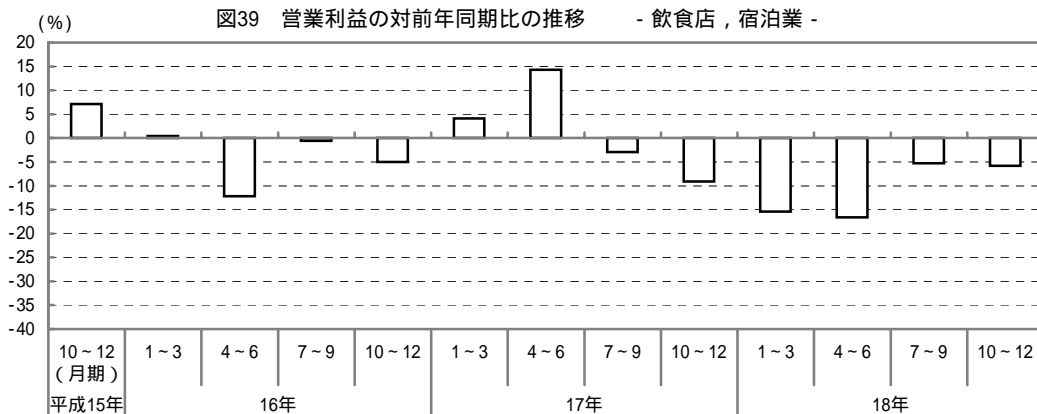
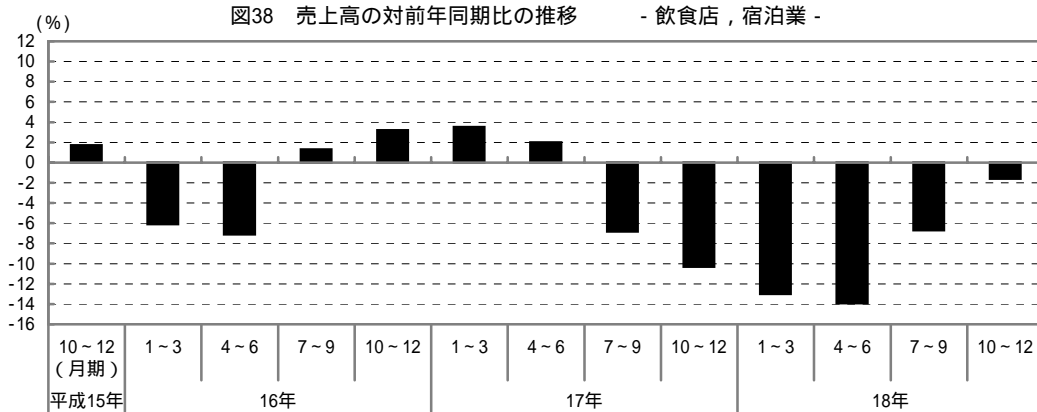


3 飲食店，宿泊業

(1) 売上高及び営業利益

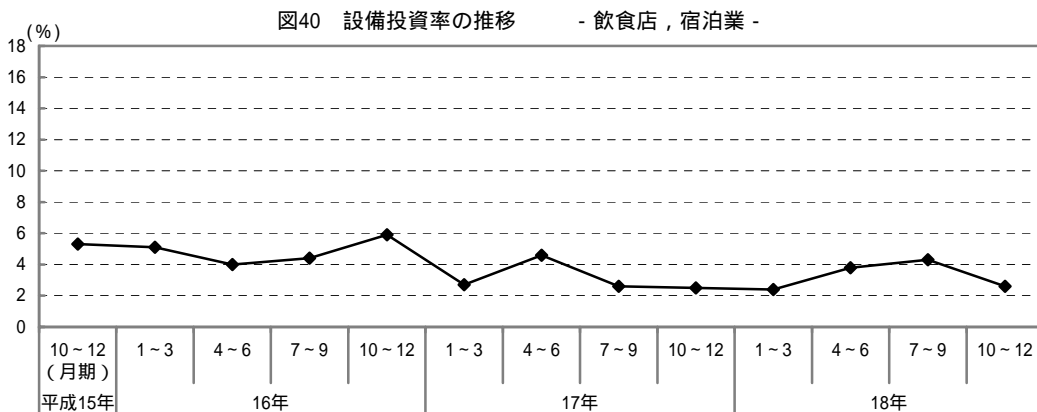
今期の1事業所当たりの売上高は228万5000円で、これに対する費用は売上原価が94万5000円、営業費が89万9000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は44万1000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)1.6%で、6期連続で減少した。また、営業利益は(-)5.8%で、6期連続で減少した。



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は5万9000円で、前年同期(5万8000円)を上回った。また、設備投資率は2.6%で、前年同期(2.5%)を0.1ポイント上回った。

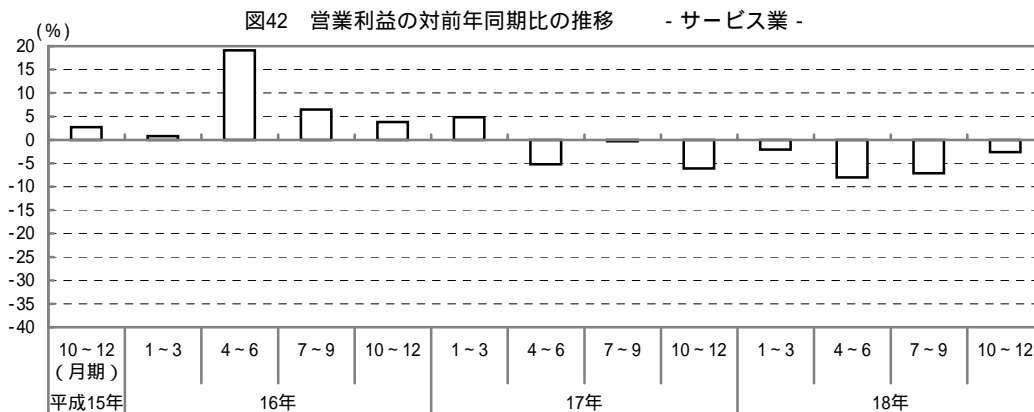
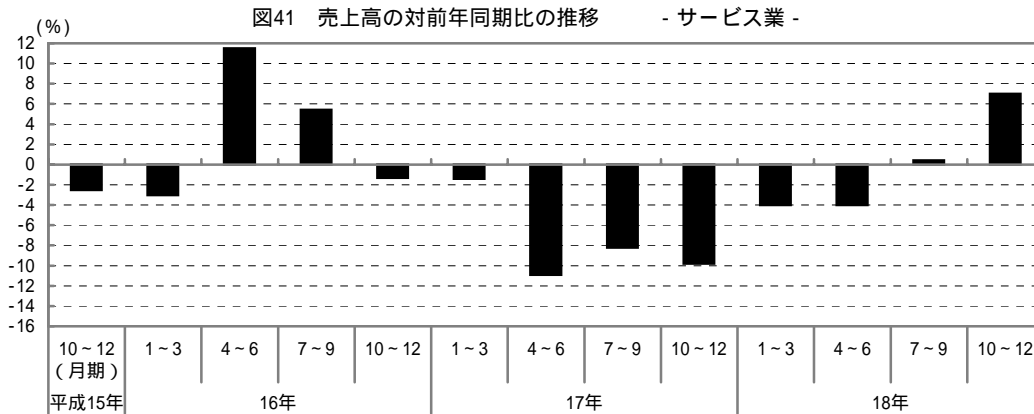


4 サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は158万3000円で、これに対する費用は売上原価が29万2000円、営業費が71万8000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は57万3000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 7.0% で、2期連続で増加した。また、営業利益は(-) 2.6% で、7期連続で減少した。



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は25万6000円で、前年同期(13万4000円)を上回った。

また、設備投資率は 16.2% で、前年同期(9.1%)を7.1ポイント上回った。

